

し え ん 便 り

27年8月
発行

和歌山県立みくまの支援学校 支援部

今年度からテーマを決めて、年3回発行します。今年度は「合理的配慮」についてお伝えします。

ひとりでできるよ

本校では児童の実態に合わせて支援ツールを用意しています。作ったものをずっと使うのではなく、その時の実態に合わせて支援ツールを変更したり、少しずつ減らしたりしています。

スケジュール表を見ながら進めていくことで、活動に見通しがもて、活動を繰り返すことで、一学期の終わりにには登校後の準備や、はみがき・手洗いが1人でできるようになってきます。

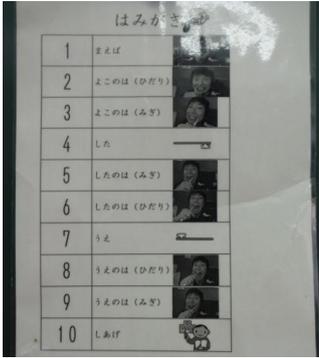
お子さんの実態に合わせて、ご家庭や学校で相談しあって、作って使ってみてください。(川上)



朝の準備用 (縦型)



はみがき用 (めくり式)



はみがき用 (縦型)



紹介！見えにくさへの支援



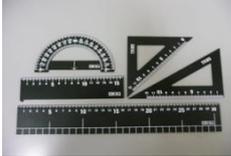
見えにくさのある子どもへの環境や教材などのちょっとした工夫・支援について紹介します。

環境の工夫・支援

- ☆廊下や教室の明るさを確保しましょう。
- ☆活動や移動するときにわかりやすいように教室やドアに目印をつけましょう。
- ☆通路の近くに物を置かないように、また、物の位置を決めて配置換えがあまりないようにしましょう。
- ☆段差や角が明確に分かるようにしましょう。
- ☆眩しさを防ぐためにブラインドやカーテン等で光の調整をしましょう。



太野ノート



定規

教材などの工夫・支援

- ☆鉛筆は濃いもの (B や 2B) を選びましょう。
- ☆ノートは罫線の見えやすい物を選びましょう。
- ☆定規や分度器は目盛りや数字が見えやすいものを選びましょう。
- ☆判別しにくい色で区分されているときは黒で境界線を入れましょう。
- ☆タブレットのカメラ機能や拡大読書器を活用しましょう。
- ☆チョークの色が見やすいかを確認してもらい、見えにくい色は使わないようにしましょう。



拡大読書器



子どもや保護者とも話し合いながら、どのような合理的配慮が必要か考えてみましょう！ (杉山)

参考資料：ロービジョンケアの実践 視覚障害者のQOL向上のために第2版 編集 高橋広 医学書院